



宮司プレス 一〇九号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年十二月二十一日

◇宮司の柴田です。今年も、余すところ十日となりました。今年を振り返りますと、

「ああすれば良かった、こうすればもつと違う結果になったのでは。」と思うところ多々ありますが、「後の祭り」です。葦舟（あしづね）に入れて流してしまっています。

今年の宮司プレスの編集発行は、昨年の五ヶ月連続休刊という前代未聞の失態を挽回（ぼんかい）しようと、快調な滑り出しではありましたが、軌道修正の道のりは、かなり、陰（けわ）しいようです。お待たせしました、

宮司プレス第百九号の発行です。

◇今年、終戦七十年の年でした。宮司プレス第百五号には、戦後の十年間は、戦争で壊された建物や鉄道といったインフラ、いわゆるハードウェアが、戦争でも失われなかった日本人の勤勉さ誠実さ思いやりといった日本人らしさ、そのソフトウェアに追いつくという、「キヤッチ アップ（追いつく）」だったと記載しました。まさしく、「物は乏（とぼ）しくて、心は豊か」であったからこそ、奇跡的な復興を遂げられたのではない

でしょうか。

◇近代資本主義の父と称（しょう）される渋沢一さんは、日本の殖産（しょくさん）、工業、商売その他百般（ひゃっばん）の進歩に、比較的罪悪の伴わなかった理由を述べられています。それは、上流社会には武士道、

中流社会には儒教、下流社会においては、勸善懲惡（かんぜんちようあく）因果応報（いんがおうほう）といった仏教の教えが定着し、その力によるところが大きいと述べられているのです。今日の社会では、すっかりその影を潜めて、道義がすたれて、損得が行動の基準となっていました。善いことを

行い、悪いことを戒めるといふ徳義、人の踏み行うべき正しい道である礼（れい）が失われ、心が劣化しているように思います。「物は豊かになったが、心が乏しくなった」のではないのでしょうか。戦後の十年は、物が心に追いつくキヤッチ アップでしたが、これからの十年は、心が物に追いつくキヤッチ

アップにしなければならぬと思います。

◇紀元前六世紀、中国春秋時代の鄭（てい）

の国の宰相（さいしやう）で、中国最初の成文法（せいぶんほう）を作ったとされる子産（しさん）は、「礼とは、天の経（けい）、地の義、民の行（こう）である」と説きました。経とは、もともと織物のたて糸のことで、このたて糸があつてはじめて布ができるわけです。したがって、人生を織る場合、経とは生き方の規範になるもので、その規範を天に求めよということ、みじかく、「天の経」と説いたのです。義もやはり規範を意味しますので、「地の義」とは、道徳倫理です。

民は天に学び、地にならつたことを実行してゆく、それが、「民の行」であります。一

国の指導的立場にある人は、天と地の規範を民に認識させなければ、民は実行のしようがなく、あるいは、実行しても不調和が生じれば正さなければなりません。その両者のためにあるのが礼なのであると論（さと）しています。先月号の宮司プレスに記述した、

神社神道の三つの教え、自然を大切に、人を大事に、明るい気持ちをもって日々を暮らすことこそが、「天の経」になるのではないのでしょうか。そして前述（ぜんじゆつ）の徳

義こそ、「地の義」です。「祭（まつり）」には、神様に心から従うという「まつらぶ」という意味がこめられています。「天神地祇（てんしんちぎ）」、全ての神様に心から従

ふ、「天の経」「地の義」の生活が、「民の行」、我々と神様との礼であり、心のキャッチアップ、敬神生活となるのではないでしょうか。

◇戦国時代の武将である上杉謙信公も子産と同じように、国を治めるには、「天の時」「地の利」「人の和」が大切であると説きました。

神様から与えられた時間を共有し「天の時」、同じ場所(空間)で暮らす「地の利」、そこに暮らす人々が、共々に手を携えて運命共同体としての地域社会(仲間)を構築する「人の和」。

来る平成二十八年が、「物も栄え心も栄える」、「天の経」「地の義」「民の行」、「神人和合(しんじわごう)」の調和のとれた、「天地人」の暮らしでありますことを心から願うものです。

◇今年の宮司プレス、第九十九号から十一号発行することができ、記念すべき百号にも到達しました。御礼申し上げます。来年の宮司プレスの発行も、毎月一回発行の軌道修正のキャッチアップができますよう善処します。ご期待ください。良いお年をお迎えください。

◇十一月の祭典行事報告

▼月次祭

◆彦島八幡宮 *十一月一日、十五日

◆貴布禰神社 *十一月一日

◆福浦金刀比羅宮 *十一月十日

▼明治祭 *十一月三日

▼龍宮神社例祭 *十一月三日

▼衣替え *十一月八日

※立冬に夏装束(しろうぞく)から冬装束に衣替え

▼熊本県宇城市豊野町鎮座、小熊野神社例祭奉仕 *十一月十八日

▼朝粥会 *十一月二十一日

▼新嘗祭

◆当宮 *十一月二十三日

◆六連島八幡宮 *十一月二十五日

◇十一月の宮司の行事会議等活動報告、予定

▼八幡宮関係団体

◆敬神婦人会研修旅行 *十一月八日

※山口市方面、山口県護国神社正式参拝



◆維蘇志会役員会 *十一月十日

◆敬神婦人会役員会 *十一月二十五日

*十月九日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆山口県神社庁下関支部神宮大麻頒布始祭(じんぐうたいまはんぷはじめさい)、総代会敬神婦人会合同研修総会

*十一月四日

◆下関支部大麻頒布対策会議、三役会

*十一月二十九日

▼美祢社会復帰促進センター教誨(きょうかい)活動

◆集合教誨女子 *十一月九日

◆集合教誨男子 *十一月三十日

日

▼人権擁護委員活動

◆下関協議会研修

*十一月二十四日

▼その他

◆西信経友会西山支部忘年会

*十一月十三日

◆キャボットジャパン忘年会

*十一月二十六日

◆リバース彦島例会 *十一月二十八日